

平成30年度第2回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要

開催日時	平成 30 年 5 月 28 日 16 時 ~ 16 時 30 分
開催場所	小山田記念温泉病院 第3会議室
出席委員	毛受、森、北村、原、山中、伊藤、浅野、家崎、坂(敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	伊藤 卓也
研究名	リハビリテーション職におけるワーク・モチベーション要因の分析
研究内容 要旨	「やる気」があるかないかで、仕事に取り組む姿勢やその効果は大きく違ってくる。しかしやる気がある職員をどう見分けるか、やる気を引き出すにはどうしたらよいか、やる気を起こさせる理由や原因はひとさまさまである。そこでやる気の要因である11要因を数値として指標化するMSQ(Motivation of Status Que)を用いて、リハビリテーション専門職におけるやる気の特徴を明らかにする。
審議結果	承認 2018-03
意見	職員を対象とするアンケート調査であるが、回答者を特定できない匿名の調査であり、承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	多田 洋子
研究名	尿路感染を繰り返す患者の症状改善の試み
研究内容 要旨	泌尿器科には尿路感染やカテーテル留置の患者様が多く、時間外、定期外の診療が多い。また、カテーテル閉塞や血尿・疼痛などの身体的・精神的苦痛を用いられる。そこで、尿路感染やカテーテル留置に伴うトラブルを軽減するにはどうしたらよいかを考えたところ、クランベリージュースを定期的に飲むことで症状改善の効果があることに着目した。そして尿路感染と診断された患者にクランベリージュースを飲むしてもらい症状改善の効果をみることで、今後の外来看護に繋げていきたい。
審議結果	条件付承認 2018-04
意見	研究対象者から取得された試料・情報は、クランベリージュースの販売元には提供しないことを説明書に記載する。
参考	本研究は大学病院医療情報ネットワーク研究センター臨床試験登録システム(UMIN-CTR)に登録予定である。
新規研究計画の審議	
申請者	堀内 友理
研究名	回復期入院患者の精神的健康を維持・改善する介入方法の検討
研究内容 要旨	回復期リハビリテーション病棟入院患者の身体的健康は改善されるが、精神的健康に変化は認められないことをしばしば経験する。そのため、精神的健康を維持・改善する介入方法を検討する必要がある。診療報酬改定により、入院中から在宅環境での動作訓練や指導・確認を行うことが推奨されている。今回、患者ができるようになりたいこと、周囲から期待されていること(以下、作業)に焦点を当てて介入を行い、入院中に在宅環境でその作業をすることで精神的健康の維持・改善が期待できるか調査し結果を報告する。
審議結果	差し戻し
意見	「精神的健康」の定義がはっきりわからない。在宅で作業療法を行うことによって、「精神的健康」が改善すると考える根拠が不明である。